

演題 大腸がんに対する低侵襲手術

講師 消化器外科・小児外科
准教授 石崎 哲央 医師

オンライン
開催

外科の世界において患者さんの体の負担の少ない**低侵襲手術**が積極的に導入されています。大腸がんの手術は、腹部に大きな切開を加える開腹手術に代わり30年前に導入された**腹腔鏡下手術**により大きく変化しました。直径10mm程度のポートと言われる細径の手術用の筒からカメラや手術鉗子を腹腔内に挿入して行う腹腔鏡下手術は、痛みが少ない、腸管機能の早期回復、出血が少ないなど患者さんの負担を軽減することに加え、拡大視効果により解剖認識の向上で精緻な手術が可能となるなど患者さんと外科医双方にとって福音をもたらしました。

さらに本邦の中でも早期に当院で導入された**ロボット支援手術**は、関節機能、モーションスケール、3Dカメラなどにより、さらなる低侵襲手術の進化をもたらしました。今回は最新の低侵襲手術について解説いたします。



You Tubeにて動画公開中！

こちらの二次元コードから
講演動画をご覧いただけます。
(病院ホームページが開きます)

